

腎細胞がんの治療で カボメティクスと ニボルマブの併用治療を 受けられる方へ

監修：国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座 泌尿器科学
教授 野々村 祝夫 先生
公益財団法人がん研究会有明病院 総合腫瘍科
部長 三浦 裕司 先生

はじめに

腎細胞がんの治療では、近年、おくすりの開発が進み、新しいおくすりが次々に登場しています。そのため、おくすりによる治療を受けるとき選択できる種類が増え、一つのおくすりで十分な効果が得られなかった場合でも、患者さんの状態やがんの状態に応じた治療が行えるようになってきました。

カボメティクスは、腎細胞がんが進行して手術ではがんを完全に切除できない患者さんや、体のほかの部分にがんが広がっている患者さんのための「**分子標的薬**」※1という種類のおくすりで、ニボルマブと併用することがあります。ニボルマブは「**免疫チェックポイント阻害薬**」※2という種類のおくすりで、カボメティクスとは異なる作用を有します。この冊子は、カボメティクスとニボルマブによる併用治療を受けられる患者さんに、おくすりのはたらきや服用の方法、主な副作用、日常生活における注意点などについて理解していただくためのものです。

カボメティクスとニボルマブによる併用治療をより効果的かつ安全に進めていくためには、医師の指示を守って治療を継続していくことが大切です。わからないことや不安に思うことがありましたら医師・薬剤師・看護師に相談し、積極的に治療に向き合っていきましょう。

※1 分子標的薬については、8ページの「分子標的薬とは」をご参照ください。
※2 免疫チェックポイント阻害薬については、9ページの「カボメティクスとニボルマブの併用療法」をご参照ください。



もくじ

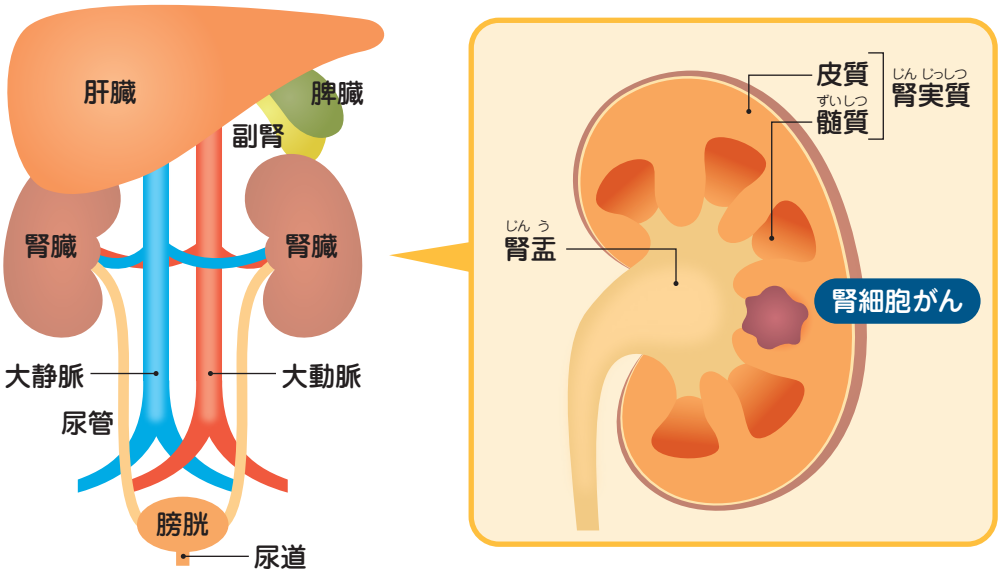
- 腎細胞がんとは …… 4
- 腎細胞がんとVEGF（VEGFとは） …… 5
- カボメティクスのはたらき …… 6
  - 【参考】分子標的薬とは …… 8
- カボメティクスとニボルマブの併用療法 …… 9
- カボメティクスとニボルマブによる治療法 …… 10
- 治療開始にあたって …… 11
- カボメティクスの服用方法 …… 12
- カボメティクスの副作用 …… 14
  - 主な副作用とその対策 …… 16
  - その他注意が必要な副作用 …… 26
- カボメティクスとニボルマブの併用時に多くみられる副作用 …… 29
- 日常生活で気をつけること …… 30
- カボメティクスの服用に関するQ&A …… 34



腎細胞がんとは

腎臓は主に、尿を作るはたらきを担う「腎実質」と、腎実質により作られた尿が集まる「腎盂」からできています。腎臓にできるがんのうち、腎実質の細胞ががん化したものを「腎細胞がん」と呼んでいます。腎臓にできるがんの約9割が腎細胞がんです。

腎臓と腎細胞がん



正常細胞とがん細胞

正常細胞では、細胞の分裂・増加（**増殖**）は巧みにコントロールされていて、細胞が増えすぎたり、減りすぎたりすることはありません。対して、がん細胞は、コントロールされずに、無秩序に増殖し続け、周囲の正常な組織や臓器に直接広がったり（**浸潤**）、血管やリンパ管を通って発生した場所から離れ（**転移**）、移動した先で再度増殖したりします。

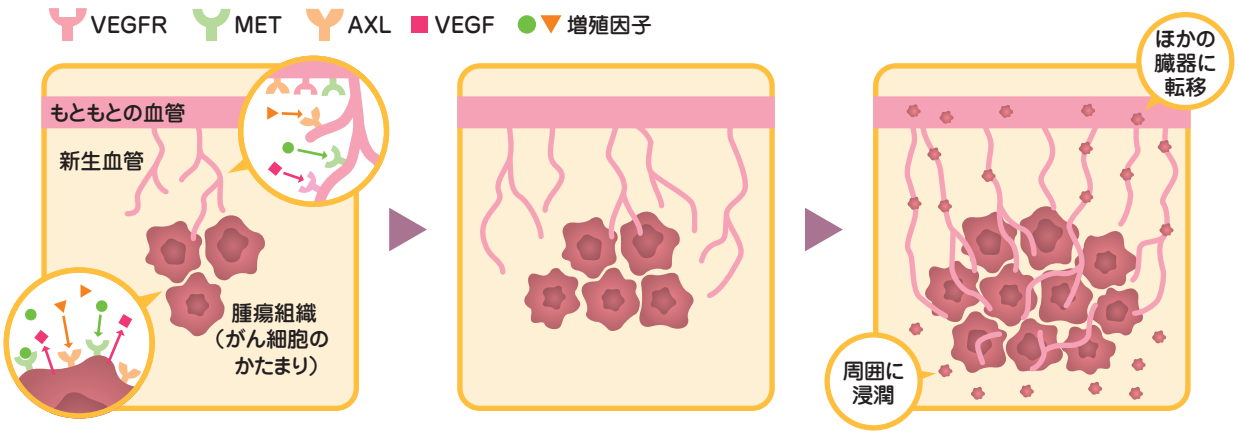
腎細胞がんとVEGF（VEGFとは）

細胞が生き、増殖するためには、酸素と栄養素を血管から取り入れる必要があります。がん細胞は、増殖し続けるために大量の酸素と栄養素を必要とし、そのため「血管を作るために必要な因子」を自ら産生・放出して、もともとある血管から新たな血管（**新生血管**）を引き込み、酸素と栄養素を大量に取り入れようとします。この「新生血管を作れ」というシグナルを送る因子の代表的なものが「**血管内皮細胞増殖因子**（**VEGF**）」です。

腎細胞がんでは、がんを抑制する遺伝子に異常が起こっています。この遺伝子の異常で、VEGFが大量に産生されるようになり、新生血管がたくさん形成されます。そうすると、がん細胞が活発に増殖できるようになり、周囲に浸潤したり、新生血管を通じて血管に入り込み、ほかの組織や臓器に転移したりするのです。

さらに、腎細胞がんでは、同じく新生血管の形成にかかわる**MET**および**AXL**という分子が異常に活発になっていることがわかっています。

がん細胞の増殖に必要な新生血管形成のしくみ



がん細胞は血管を作るために
VEGFなどを自ら産生・放出
↓
もともとの血管から血管が延びて、新しい血管（新生血管）が作られる

新生血管は、がん細胞に酸素と栄養素を供給
↓
がん細胞がどんどん増殖（腫瘍組織が大きくなる）

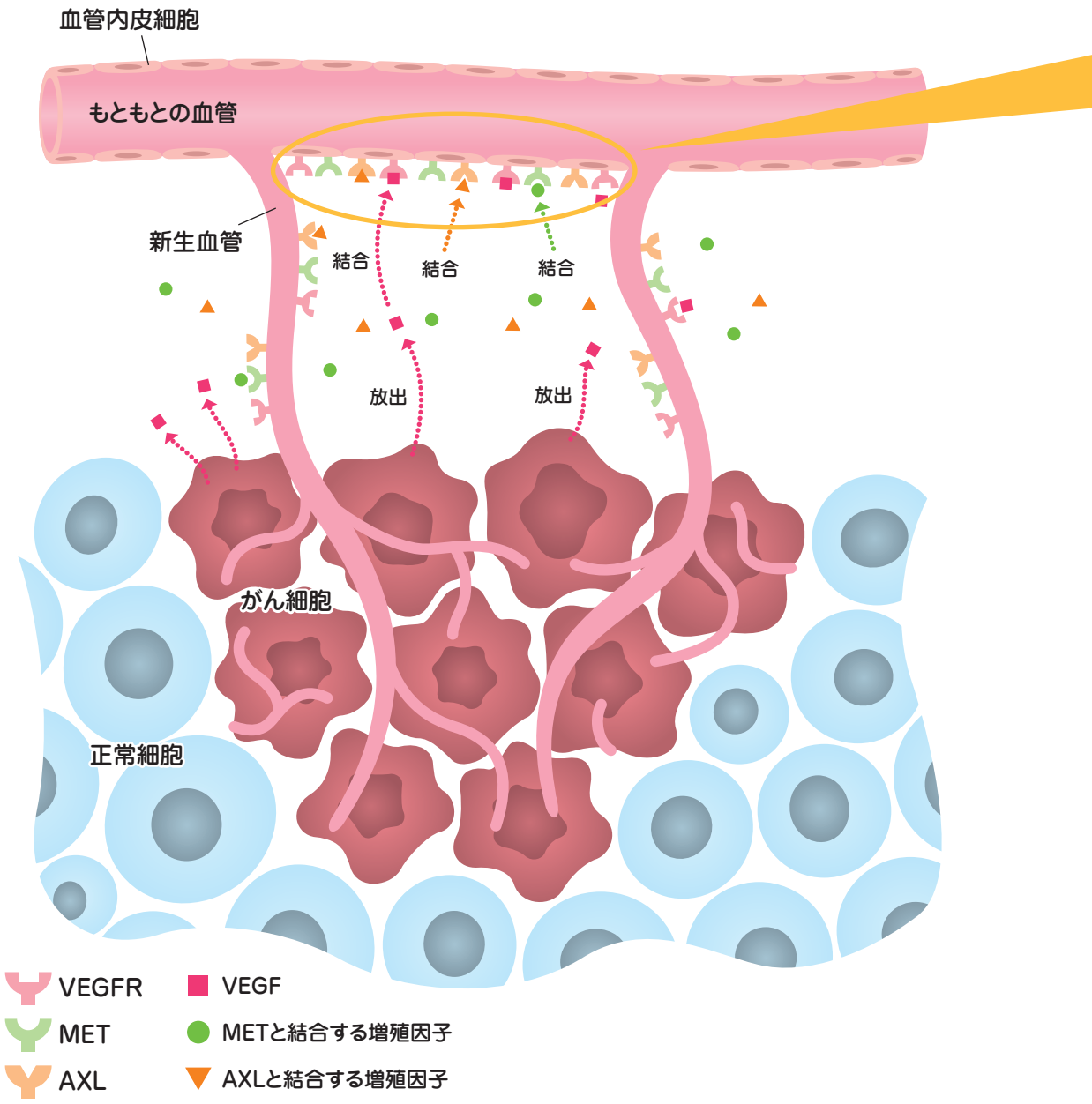
がん細胞が周囲に浸潤
新生血管が経路となって、がん細胞が転移

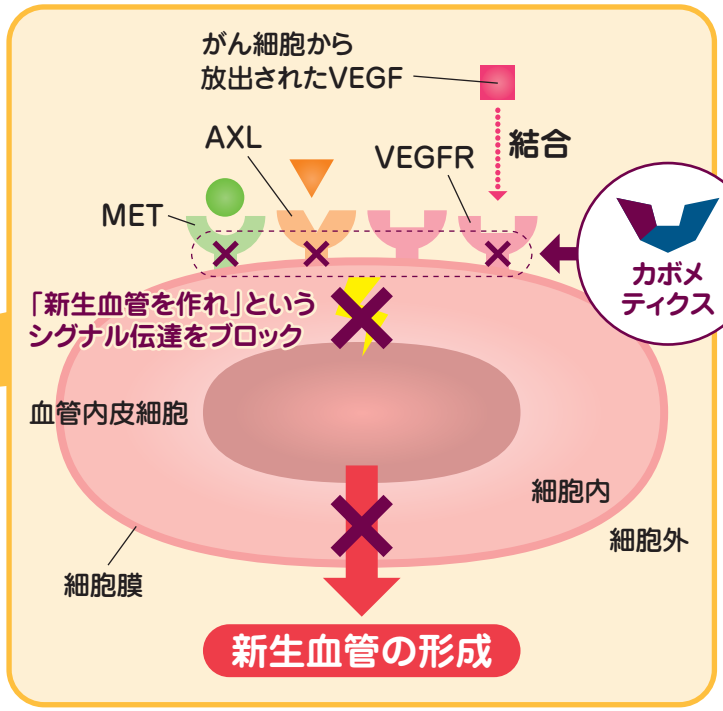
カボメティクスのはたらき

カボメティクスは、腎細胞がんの増殖・浸潤・転移にかかわる3つの分子（**VEGFR**（ブイイージーエフアール）、**MET**、**AXL**）を標的としてはたらく分子標的薬です。

※分子標的薬については、8ページの「分子標的薬とは」をご参照ください。

がん細胞が増殖するしくみ





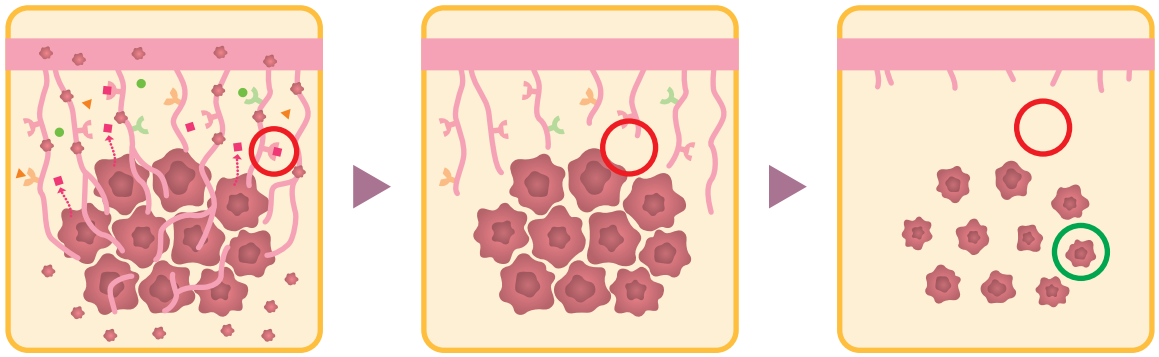
血管の内側にある細胞（血管内皮細胞）の膜上には**VEGFR**という**VEGF**と結合する「受容体」のはたらきをもつ分子が存在しています。

カボメティクスは、この**VEGFR**を阻害して「新生血管の形成」というシグナルの伝達をブロックします。

血管内皮細胞の膜上には、ほかにも「受容体」のはたらきをもつ分子が存在しています。

「新生血管の形成」が抑制されると

がん細胞への酸素・栄養素の供給が断たれ、がん細胞は縮小し、がん細胞の増殖・浸潤・転移が抑えられます。



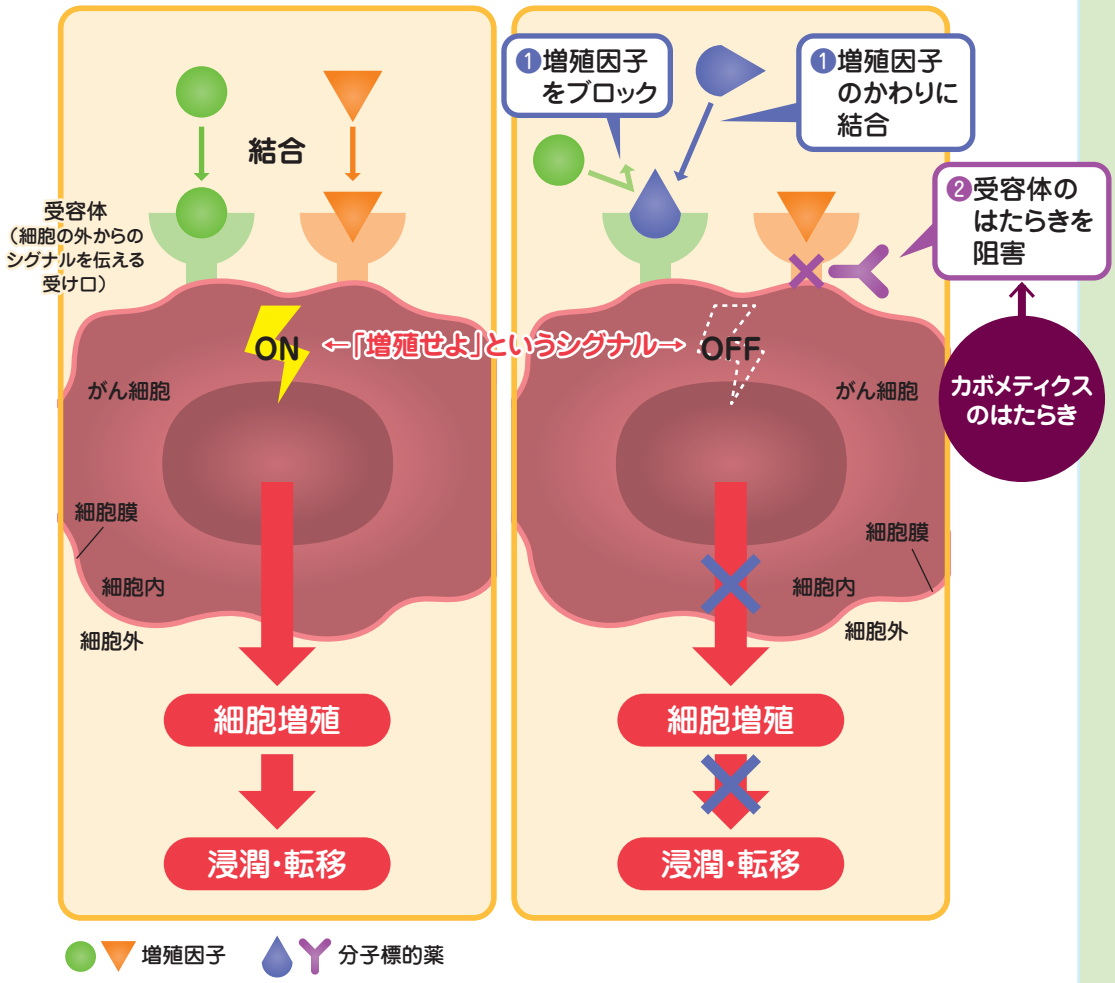
参考

分子標的薬とは

ヒトの細胞は膜（細胞膜）でおおわれていて、その膜の表面には「受容体」という、細胞の外からのシグナルを伝える受け口があります。細胞に「増殖せよ」というシグナルを送る「増殖因子」が受容体に結合するとシグナルが細胞の内部に伝わって（ON）、細胞の増殖が起こります。がんでは、このしくみに異常があって、細胞が無秩序に増殖してしまいます。分子標的薬は、細胞膜の表面にある特定の分子を標的とすることにより、効率よくがん細胞を攻撃するおくすりで、腎細胞がんを含むさまざまながんの治療に用いられています。

分子標的薬は、❶**増殖因子のかわりに受容体と結合する（増殖因子と受容体との結合をブロック）**、または❷**受容体のはたらきを阻害する**ことにより「増殖せよ」というシグナルの伝達を抑え（OFF）、がん細胞の増殖・浸潤・転移を抑えるおくすりです。

分子標的薬のはたらき



カボメティクスと
ニボルマブの併用療法

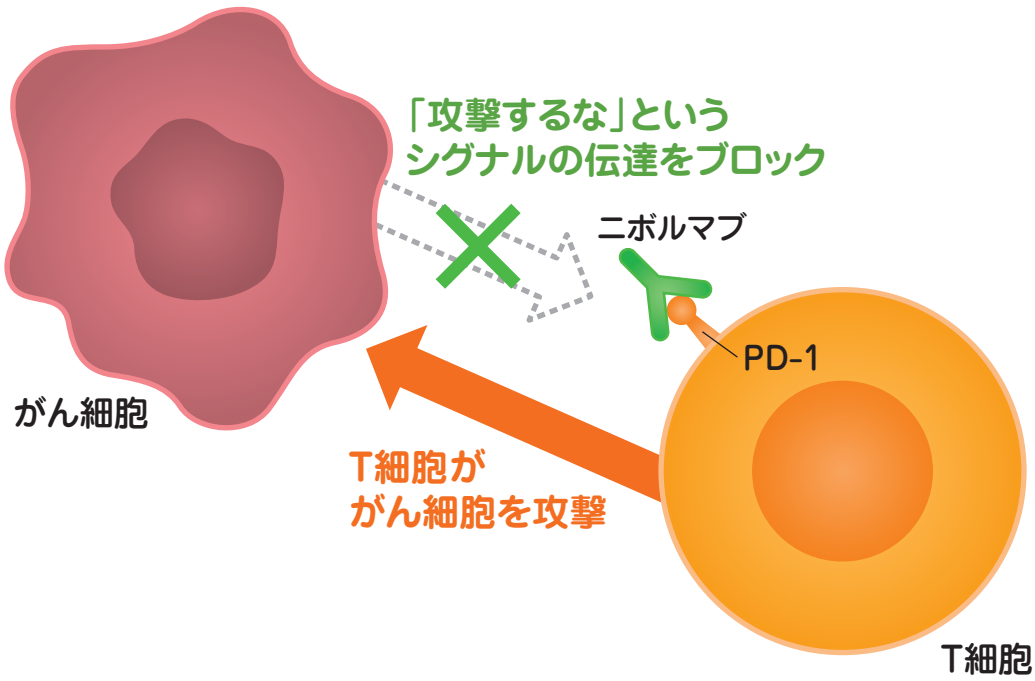
カボメティクスは、ニボルマブと併用することがあります。ニボルマブは、「免疫チェックポイント阻害薬」という種類のおくすりで、カボメティクスとは異なる作用を有します。

●免疫チェックポイント阻害薬とは

免疫とは、細菌やウイルスなどの病原体、がん細胞などを異物とみなし、排除することで、体を守る力のことです。免疫では、血液中の白血球が中心的な役割を果たします。白血球の一種である細胞傷害性Tリンパ球（T細胞）は、がん細胞を攻撃する性質があります。

T細胞の表面には、免疫チェックポイント分子というアンテナがあります。ここにがん細胞が結合すると、T細胞に「がん細胞を攻撃するな」というシグナルが伝わり、T細胞にブレーキがかかり、T細胞の暴走を防いでいます。

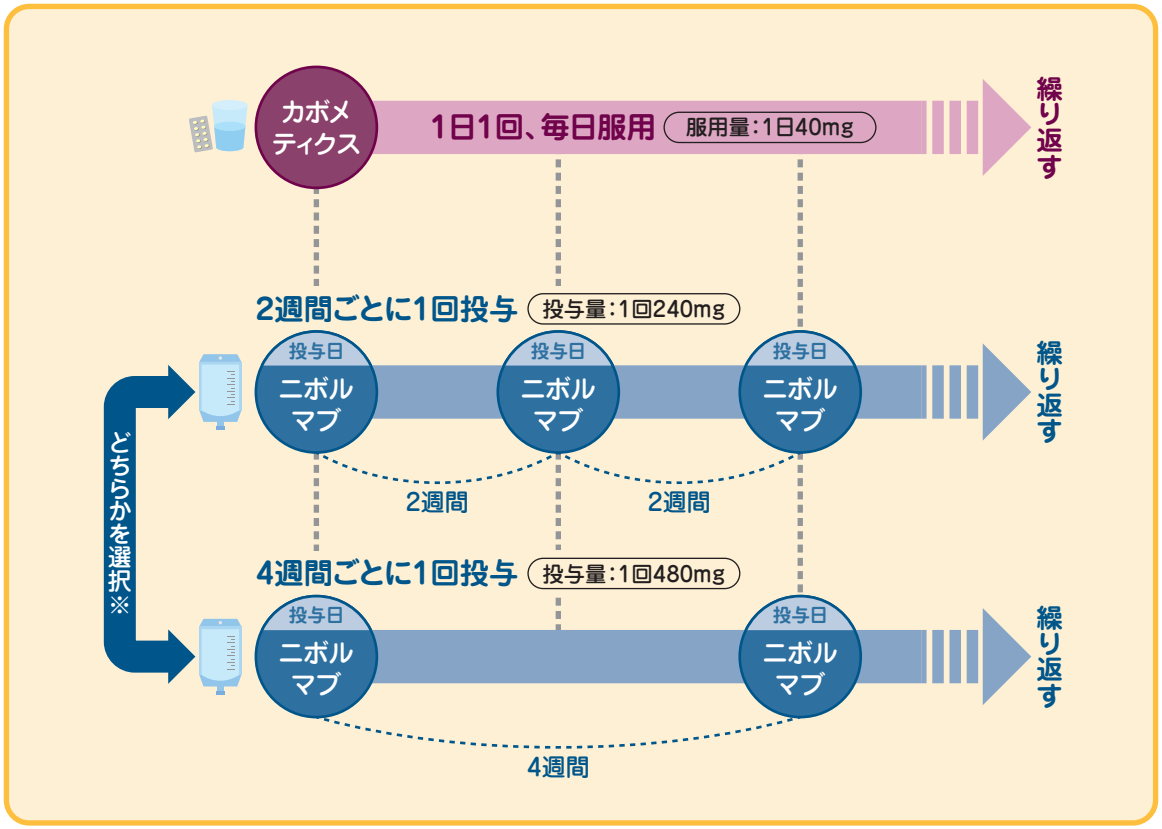
ニボルマブは、免疫チェックポイント分子の一つであるPD-1に結合し、「攻撃するな」というシグナルの伝達をブロックすることで、T細胞にブレーキがかかるのを防ぎます。



カボメティクスと
ニボルマブによる治療法

カボメティクスは、1日1回40mgを空腹時に服用します。副作用の症状が重いときなどは、1日1回20mg、または1日おきに20mgを服用することもあります。
ニボルマブは、2週間（14日間）ごとに1回、または4週間（28日間）ごとに1回投与します。

治療スケジュール



※ニボルマブの投与スケジュールについては、主治医にご確認ください。

治療開始にあたって

カボメティクスとニボルマブによる併用治療は、腎細胞がんが進行して手術ではがんを完全に切除できない患者さんや、がんが転移した患者さんが対象です。
治療開始にあたって、以下に該当する場合は医師・薬剤師・看護師にお伝えください。

カボメティクスによる治療の開始にあたり、注意が必要な患者さん

- ☐ 血圧が高い・高血圧であると指摘されている
- ☐ 血栓塞栓症※1にかかっている、または以前かかったことがある
- ☐ 消化管など、お腹の中に炎症があると指摘されている
- ☐ 脳または肺にがんが転移している
- ☐ 手術、抜歯などの外科的処置を受けて間もない
- ☐ 肝臓の機能が低下していると指摘されている
- ☐ 妊娠中である、または妊娠の可能性がある
- ☐ 授乳中である、または授乳の予定がある

※1 血栓塞栓症とは　静脈や動脈に血液のかたまり（血栓）ができて血流が止まってしまったり、血栓が血液の流れにのって運ばれていき、行きついた場所の血管をふさいでしまう病気のことです。

ニボルマブによる治療の開始にあたり、注意が必要な患者さん

- ☐ 自己免疫疾患※2にかかっている、または以前かかったことがある
- ☐ 間質性肺疾患※3にかかっている、または以前かかったことがある
- ☐ 臓器移植（造血幹細胞移植を含む）を受けたことがある
- ☐ 結核にかかっている、または以前かかったことがある

※2 自己免疫疾患　免疫系が正常に機能せず、自分の正常組織を攻撃してしまう病気です。甲状腺機能異常症や関節リウマチ、1型糖尿病などが該当します。

※3 間質性肺疾患　28ページの「歩行時の息切れ、乾いた咳、発熱などがみられたら」をご参照ください。

オプジーボ電子添文 2026年4月改訂（第27版、再審査結果）参照

カボメティクスの服用方法

カボメティクスは、のむおくすり（錠剤）です。ニボルマブと併用する場合、通常、成人にはカボメティクス1日1回40mgを空腹時に服用します。錠剤を噛みくだいたりつぶしたりせずに、そのまま十分な量（コップ一杯程度）の水またはぬるま湯とともに服用してください。

カボメティクスは空腹時に服用しましょう

カボメティクスは食べ物とともに服用すると、その効果や副作用の発現に影響があらわれることがあります。食事の前後（食事前の1時間、食事後の2時間）の服用を避け、空腹時に服用してください。



また、カボメティクスを服用している間は、グレープフルーツジュースやセイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）を含む食品の摂取を控えてください。

※セイヨウオトギリソウ（英名セント・ジョーンズ・ワート）はハーブの一種で、花を含む地上部分やエキス、オイルおよびそれらを加工したお茶や錠剤などの形で健康食品として販売されています。

カボメティクスを服用しわすれた場合、次の服用予定日に1回分を服用してください。2回分をまとめて服用しないでください。

カボメティクスは、指示された量を服用してください。服用する量を間違えた場合は、ただちに医師または薬剤師にご相談ください。

医師は、患者さんの状態によって、おくすりの量を減らしたり、使用を中止したりすることがあります。また、一旦減らした量を増やすこともあります。おくすりは必ず、医師の指示どおりに服用しましょう。

何かわからないことがありましたら、医師・薬剤師・看護師に相談してください。



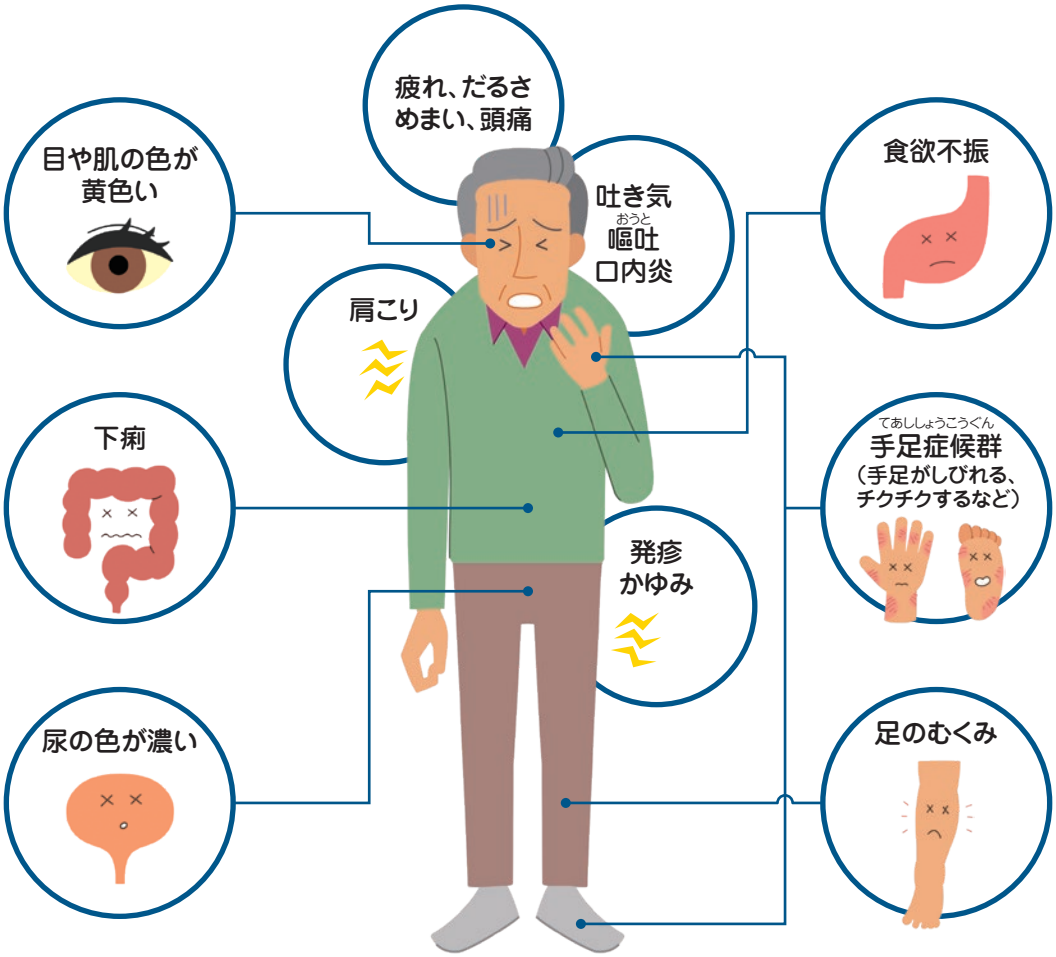
おくすりの服用や日々の変化を日誌に記録しておきましょう

おくすりをきちんと服用できているか、体調の変化やおくすりによる副作用がないかなどを把握しておくことはとても重要です。「カボメティクス治療日誌」を利用して、日々の健康チェックを習慣づけましょう。

カボメティクスの副作用

カボメティクスを服用しているときに、以下の症状がみられることがあります。

カボメティクス服用中に比較的起こりやすい主な症状



症状の種類や起こり方、時期などはお一人おひとりで異なります。気になる症状や何らかの不調がみられたら、ただちに医師・薬剤師・看護師に連絡し、指示に従いましょう。

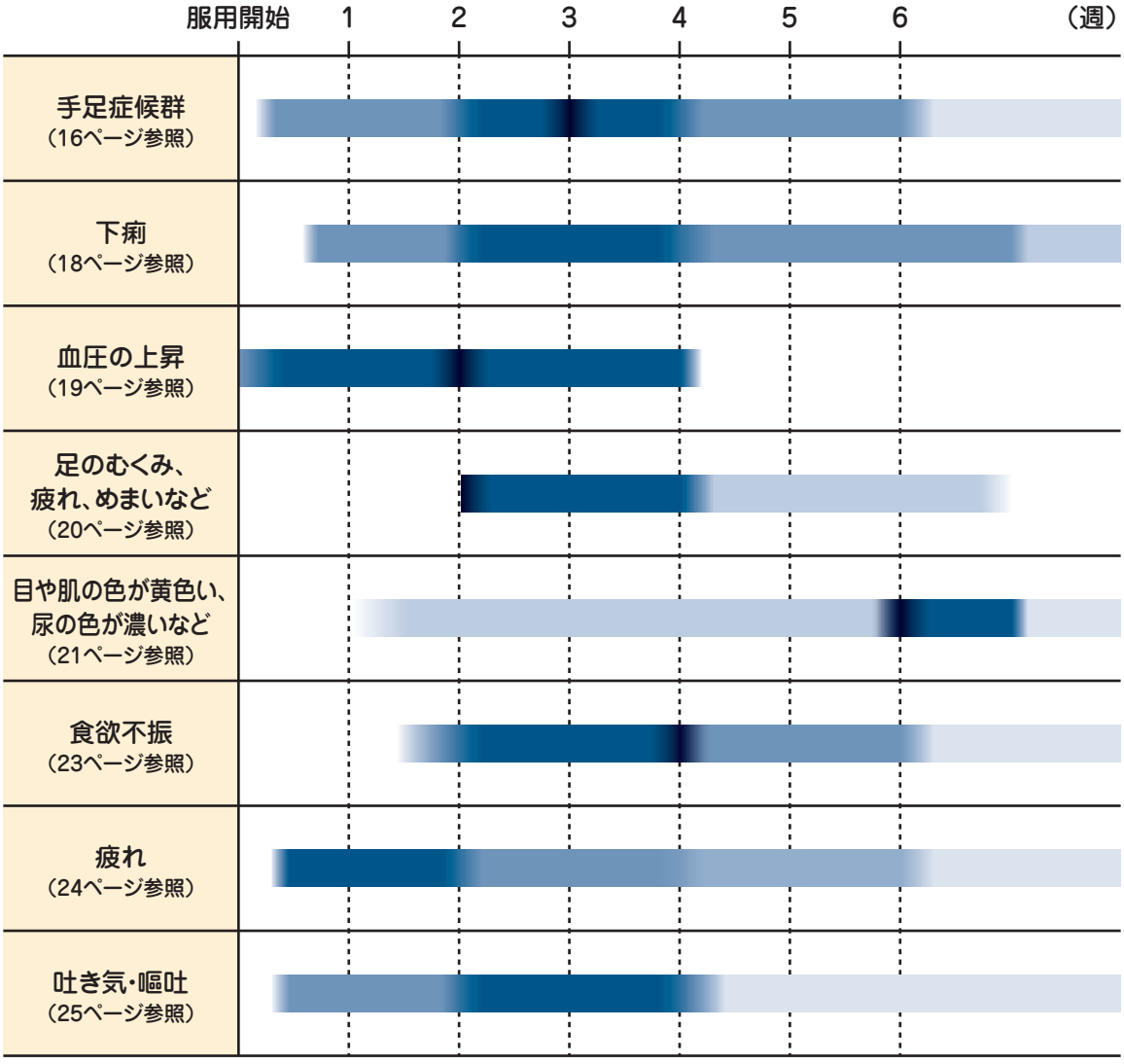
自己判断でカボメティクスの量を減らしたり、中止したりしないでください。

ここでは臨床試験で得られた主な症状の発現時期を示します。

表中の青色が濃い時期は、それぞれの症状が発現しやすい（発現例数が多い）時期であることを示しています。

ただし、発現時期は一般的な目安であり、実際の発現時期はお一人おひとりで異なります。カボメティクス服用中は、ご自身の症状や体調に注意を向けてください。

カボメティクス服用中に比較的起こりやすい主な症状の発現時期（目安）



※カボメティクス単剤療法の際の発現時期です。

●主な副作用とその対策

カボメティクスを服用しているときに以下の症状や何らかの不調がみられたら、医師・薬剤師・看護師に相談してください。

手足症候群（てあししょうこうぐん）

手足に普段とは異なる次のような症状があらわれることがあります。

- **手足がしびれる、痛む、チクチク、ピリピリするような感覚がある**
- **手足が赤くはれる、むくむ、水ぶくれができる、表面が硬くなってガサガサする**
- **爪が変形する、色素が沈着する**

このような症状は、手足症候群というおくすりの副作用である可能性があります。なぜ起こるかはよくわかっていません。

●日頃から気をつけておきましょう

手の指先やかかとなど、力のかかるところや摩擦が生じるところにあらわれやすいことがわかっています。予防・悪化防止のため、以下のことを心がけましょう。

- 手足に過度な刺激を与えないように、手袋や厚手の靴下で手足を保護する
- やわらかい材質でできた靴をはく、きつい靴下をはかない
- 乾燥を防ぐため、保湿剤を用いて皮膚を保護する
- 手足を刺激しないように、熱いお風呂やシャワーを控える

手足症候群は、気づかずに放置していると、症状が重くなることがあります。普段からご自身の手足をよく観察しておきましょう。

●症状に気づいたら

症状が軽いうちに対処すれば悪化を防ぐことができます。ですので、早めに症状に気づくことが重要です。少しでも違和感を感じたら、すぐに医師・薬剤師・看護師に連絡しましょう。

カボメティクスを投与した固形がんの患者さんで、以下のような手足の症状がみられました。



A、B：Aは手、Bは足の紅斑、過角化症、カルス形成

C、D：Cは足の内側面、Dは足底面の水疱、過角化症、紅斑

Gerendash BS et al. Onco Targets Ther. 2017: 10: 5053-5064.

下痢

水分が多い便（水様便）や泥状の便、血がまじった便などが出ることがあります。また、ときに腹痛を伴うこともあります。

下痢は、病気の影響で起こることもありますが、おくすりの副作用である可能性もあります。

● 日頃から気をつけておきましょう

胃やお腹を刺激する可能性がある食べ物の摂取や冷たいものの食べ過ぎ・飲み過ぎは控え、消化のよいもの、整腸作用のあるもの（乳酸菌飲料など）をとるようにしましょう。

● 下痢が起こったら

- 下痢が続くと体の中の水分や電解質が失われ、脱水症状（めまい、ふらつきなど）や栄養障害が起きたりします。白湯などの温かい飲み物、スポーツドリンクでこまめな水分補給を心がけましょう。
- お腹への負担を減らすため食事の内容を工夫したり、1回の食事の量を減らして回数を増やすなど、食事のとり方も工夫してみましょう。
- 下痢が続くと体力を消耗するため、休息を十分にとることも大切です。
- 重症になると全身症状（脈が速くなる、血圧が低下するなど）があらわれることがありますので、重症化する前に医師・薬剤師・看護師に相談しましょう。



血圧の上昇

血圧が高くなることがあります。定期的に血圧を測定することが重要です。

高血圧には特別な症状はありませんが、めまい、頭痛、肩こりなどの症状があらわれることがあります。

もともと血圧が高い場合は特に、血圧の上昇に気をつけてください。また、血圧のおくすりが処方されている場合は、わすれずに、処方どおりに服用してください。

● 日頃から気をつけておきましょう

医師は血圧の測定を定期的に行って、血圧の変動を確認しながら治療を進めていきます。ご自身も定期的に血圧を測る習慣をつけておき、血圧の値を常に把握しておきましょう。また、食生活の見直し（栄養バランスを意識した食事）、特に減塩を心がけることも大切です（30ページの「日常生活で気をつけること」「塩分を控える･血圧を管理する」もご参照ください）。

※ご家庭で測った場合は最高血圧135 mmHg以上、最低血圧85 mmHg以上（病院で測った場合は最高血圧140 mmHg以上、最低血圧90 mmHg以上）が高血圧症とされています。



足のむくみ、疲れ、めまいなど

足のむくみ、疲れ、めまい、頭痛などの症状があらわれることがあります。

このような症状があらわれた場合は、おくすりの副作用で腎臓の機能に影響が出ている可能性があります。また、尿検査で「蛋白尿」としてあらわれることもあります。

● 日頃から気をつけておきましょう

腎臓のはたらきの一つに、血液中の老廃物をろ過して尿として排泄する機能があります。このろ過機能が低下すると、通常はろ過されることがないタンパク質が尿にもれ出てくることがあります。この現象を蛋白尿といいます。また、腎臓の機能が低下して、塩分や水分の排泄が十分に行われないときは、むくみとなってあらわれます。

医師は尿検査を定期的に行って、腎臓の機能を確認しながら治療を進めていきますが、足のむくみなどの症状に気づいたときや心配なことがあるときは、医師・薬剤師・看護師に相談しましょう。



目や肌の色が黄色い、尿の色が濃いなど

目や肌の色が黄色い、尿の色が濃い、発疹（ほっしん）・かゆみなどの症状があらわれることがあります。

このような症状が急にあらわれたり持続したりする場合は、おくすりの副作用で肝臓の機能に影響が出ている可能性があります。また、AST・ALTの上昇といった肝機能検査値の異常としてあらわれることもあります。

※ASTとALTは肝臓の細胞中に含まれている酵素（こうそ）で、肝臓の細胞が壊されたときに血液中にもれ出てくるため、肝臓の機能を示す指標とされています。

● 日頃から気をつけておきましょう

医師は血液検査を定期的に行って、肝臓の機能を確認しながら治療を進めていきますが、目や肌の色、尿の色などの変化に気づいたときや心配なことがあるときは、医師・薬剤師・看護師に相談しましょう。



口内炎

口の中が痛い、赤くなる、はれる、冷たいものや熱いものがしみるなどの症状があらわれることがあります。

おくすりの副作用で口内炎が起こることがあります。

● 日頃から気をつけておきましょう

口内炎を予防するために、こまめなうがい、歯磨きにより、口の中を清潔に保ちましょう。うがいは、起床時、毎食前後、就寝時などにうがい薬を用いて行いましょう。歯磨きでは、ヘッドが小さくやわらかめの歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシなどを使い、磨き残しがないようにしましょう。また、定期的に歯科検診を受けましょう。

● 口内炎になったら

- うがいは続けましょう。
- 歯磨きの際に痛みを伴う場合は、ヘッドが小さくやわらかめの歯ブラシをぬるま湯につけ、さらにやわらかくして使用しましょう。さらに痛みが強くなった場合は、スポンジブラシで口の中全体をやさしくふきましょう。
- 食事の際は、やわらかいもの、ミキサー食、きざみ食などをとりましょう。熱いもの、刺激物（香辛料や酸味のあるもの）は避けましょう。



食欲不振（しょくよくふしん）

食事をとれない、食べる気がしないといった症状があらわれることがあります。

このような食欲不振は、不安やストレスによる心理的な変化で起こることもありますが、おくすりの副作用である可能性もあります。

● 食欲がないときは

無理して食事をとる必要はありません。好きなもの、食べられるものを探して、少しずつ数回にわけて食べるようにしましょう。少量でも効率よく栄養が補える栄養補助食品をとるのもよいでしょう。



疲れ

強い疲れやだるさなどの症状があらわれることがあります。

疲れやだるさなどは、病気による身体的・心理的ストレスに加え、おくすりの副作用によってもあらわれることがあります。

●疲れやだるさなどを感じるときは

無理をせず、心身を休ませることを一番に考えてください。しなければならない家事や作業などは、疲れを感じることが少ない時間帯に、優先順位が高いものから行うことをおすすめします。また、ご自身に合った方法をみつけて、心身をリラックスさせることも大切です。



吐き気・嘔吐（おうと）

ムカムカする・吐きそう、または実際に吐いてしまったりすることがあります。

このような症状は、病気の影響で起こることもありますが、おくすりの副作用である可能性もあります。

● 日頃から気をつけておきましょう

胃に負担をかけないよう刺激のある食べ物や脂っこい食べ物を控え、消化のよいものを選ぶことが大切です。化粧品、芳香剤、お部屋にこもったにおい、食べ物のにおいや見た目が吐き気や嘔吐を引き起こすこともあります。生活環境を変えたり、食材・調理方法などを工夫してみましょう。

● 吐き気を感じたら

吐き気を感じたら、胃やお腹を圧迫しないように衣服をゆるめ、横になったり、楽だと思う姿勢をとったりしましょう。冷たい水でうがいをするのもよいかもしれません。嘔吐が続くときにはこまめな水分補給を心がけましょう。



その他注意が必要な副作用

頻度は高くありませんが、カボメティクスの服用中に以下の症状がみられることがあります。以下の症状に気づいたら、ただちに医師・薬剤師・看護師に連絡してください。

突然の激しい腹痛や圧痛（押すと痛い）などの症状があらわれたら



「消化管穿孔（しょうかかんせんこう）・瘻孔（ろうこう）」の可能性があります。
これは、胃や腸などの消化管の壁に穴が開き、消化中の食べ物や便などが外にもれ出た状態のことです。

鼻血が出る、歯ぐきから血が出る、青あざができる、血尿・血便があるなどの症状があらわれたら



おくすりの影響で、出血しやすくなったり、出血が止まりにくくなっているかもしれません。

- 転倒やケガをしないよう十分注意しましょう。
- 毛先のやわらかい歯ブラシを選びましょう。
- 体を圧迫する衣服を着ないようにしましょう。



普段と異なる症状や変化があったとき

普段と異なる症状や体調の変化を感じたときは、すぐに医師・薬剤師・看護師に連絡してください。症状をやわらげるためのおくすりを使うなど、いろいろな対応策をとることができます。症状のことで悩むことがあったらがまんしないで、医師・薬剤師・看護師に相談し、適切な対策をとりましょう。

息苦しさ、胸痛、冷や汗や、足のはれ・痛み・肌の色が変化したなどの症状があらわれたら



「血栓塞栓症（けっせんそくせんしょう）」の可能性があります。
これは、静脈や動脈に血液のかたまり（血栓）ができて血流が止まってしまったり、血栓が血液の流れにのって運ばれていき、行きついた場所の血管をふさいでしまう病気のことです。ふさがれた血管の部位によってさまざまな症状があらわれます。

頭痛、意識障害、けいれん、視覚障害などの症状があらわれたら



「可逆性後白質脳症（かぎゃくせいこうはくしつのうしょう）」の可能性があります。
これは大脳（だいのう）の後頭葉白質（こうとうようはくしつ）という部分が障害される病気です。この脳症による症状は軽快・消失するため、「可逆性」とされています。

あごのはれ・痛み・歯がゆるむなどの症状があらわれたら



「顎骨壊死」の可能性があります。これは、あごの骨の壊死が起こり、細菌による感染が起こった状態です。抜歯などの歯の治療に関連してあらわれることがあるので、歯科を受診する際には、このおくすりを服用していることを歯科医師に告げましょう。

その他注意が必要な副作用

歩行時の息切れ、乾いた咳、発熱などがみられたら



「間質性肺疾患」の可能性があります。
肺は、肺胞と呼ばれる小さな袋がブドウの房のように集まってできており、肺胞から酸素を取り込みます。
間質性肺疾患では、この肺胞の壁や周辺に炎症が起こります。
そうすると血液に酸素が取り込めず、動脈血液中の酸素が減少した状態（低酸素血症）となり、息切れ、空咳、発熱などが起こります。

前頸部やまぶたのはれ、疲れ、やる気の低下、体重増加などがみられたら



「甲状腺機能低下症」の可能性があります。
これは、身体の新陳代謝（エネルギー代謝）を活発にする甲状腺ホルモンの血中濃度が低下したために起こる症状です。

カボメティクスとニボルマブの併用時に多くみられる副作用



カボメティクスとニボルマブの併用療法と、カボメティクス単剤療法では、副作用の発現頻度が異なる場合があります。
また、カボメティクス単独療法と同様の副作用であっても、併用療法により副作用が強くあらわれることがあります。
以下の副作用は、カボメティクスとニボルマブの併用療法の臨床試験で多くみられた副作用です。

- **下痢**
- **手足症候群（手足がしびれる、痛む、チクチクする）**
- **甲状腺機能低下症**
- **高血圧（血圧の上昇）**
- **疲労**
- **肝機能検査値の異常（AST増加、ALT増加）**
- **味覚異常**
- **悪心（吐き気）**
- **食欲減退　　など**

この冊子に記載されている副作用以外にも、ニボルマブ単剤療法でみられる副作用もあります。ニボルマブ単剤療法で起こる可能性がある副作用については、ニボルマブの患者さん向け冊子「腎細胞がん オプジーボとカボザンチニブによる併用療法を受けている方へ」でご確認ください。

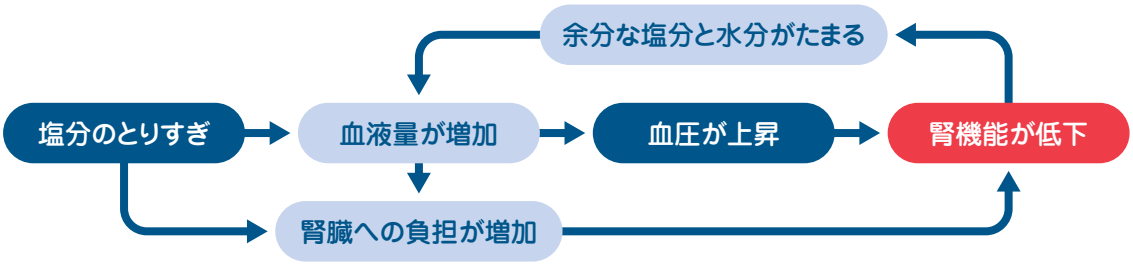
気になる症状がありましたら、早めに医師・薬剤師・看護師に連絡してください。

日常生活で気をつけること

腎機能の低下を防ぐため、次の点を心がけましょう

●塩分を控える・血圧を管理する

腎臓は余分な塩分と水分を排泄し、血圧を調節するというはたらきをしています。塩分のとりすぎは、血圧を上昇させる大きな要因となります。腎臓の血管は細いため、血管に高い圧がかかること（高血圧）で傷つきやすく、腎機能が低下する原因になります。さらに、腎機能が低下すると、塩分や水分の排泄がうまくいかなくなり、その結果、血液量が増加して血圧が上昇する、といった悪循環におちいってしまいます。このような悪循環を断ち切るため、塩分を控えるとともに、血圧の管理を心がけましょう。適切な塩分量については、医師・薬剤師・看護師にお尋ねください。



●肥満を改善する

肥満は、腎臓の血行を変化させて、腎臓の機能に影響を及ぼします。さらに、肥満は、血圧を上昇させる大きな要因であり、腎細胞がんが発生する要因の一つでもあります。

食生活の見直し（栄養バランスを意識した食事）、適度な運動など、無理をしない程度にライフスタイルの改善に取り組みましょう。

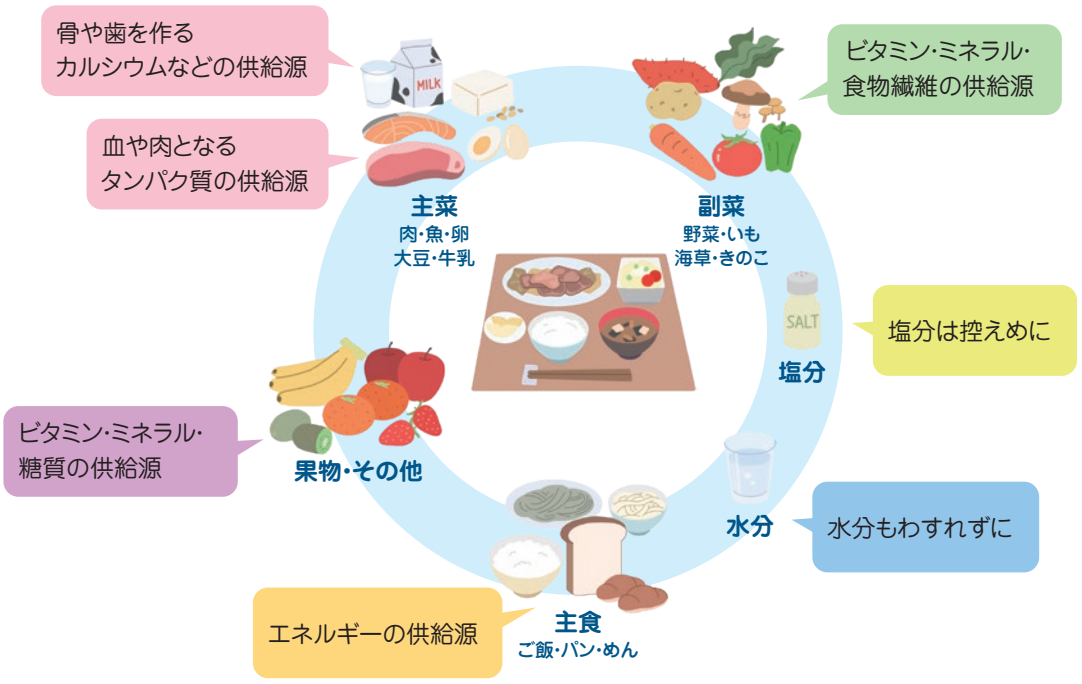
●禁煙する

タバコに含まれる成分は血管を傷めます。腎臓には細い血管がたくさん集まっているため、タバコの悪影響を強く受けます。また、タバコは腎細胞がんが発生する要因の一つです。腎機能を低下させないためには、禁煙することがとても重要です。

適度な運動とバランスのよい食事で体力の維持・回復を図りましょう

病気だから、治療中だからといって体を動かさないでいると体力や筋力が低下してしまい、治療を続けられなくなることがあります。適度な運動は、体の代謝や免疫の機能を高め、体力の維持・回復を助けます。また、気分転換にもなり、心身のストレスも減って、「生活の質（QOL）」が向上することもわかっています。医師とよく相談し、無理をしない範囲で体を動かすようにしましょう。

体力の維持・回復のためには食事をとることも大切です。いろいろな食品を組み合わせて、栄養バランスのよい食事をとりましょう。ただし、食欲がないとき、吐き気があるときなどは無理をせず、好きなものや食べられるものを少しずつ、ゆっくりとるようにしましょう。



日常生活で気をつけること



女性患者さん、男性患者さんのパートナーが妊娠しないように気をつけましょう

妊娠する可能性のある女性患者さんは、カボメティクスを服用している間および服用終了から一定期間は避妊してください。避妊の方法は、経口避妊薬以外の適切な方法を用いましょう。

もし、妊娠していることに気づいたら、すぐに医師・薬剤師・看護師に連絡してください。

パートナーが妊娠する可能性がある男性患者さんは、カボメティクスを服用している間および服用終了から一定期間は適切な方法で避妊してください。

出血に注意しましょう

カボメティクスを服用している間、出血しやすい状態や血が止まりにくい状態になっていることがあります。そのため、出血を招くおそれのある行動をしないようにしましょう。ケガや転倒に注意する、歯ブラシは毛先のやわらかいものにする、歩きやすい靴をはく、便通を整えるなども大切です。

口の中を清潔に保ちましょう

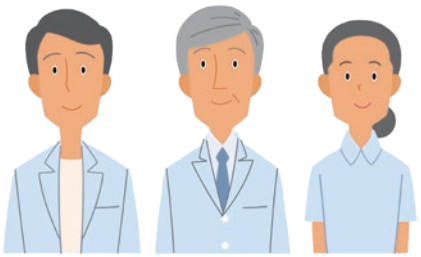
口内炎や、細菌繁殖による感染リスクを軽減するため、口腔ケアが重要です。

また、定期的に歯科検診を受けましょう。その際、歯科医師から抜歯などを求められた場合は、医師・薬剤師・看護師に連絡してください。

定期的に通院して、診察・検査を受けましょう

腎細胞がんでは、最も転移しやすいのは肺で、骨や脳などにも転移する可能性があります。転移や再発を早期に発見するため、症状がなくても定期的に通院し、診察と検査を受けましょう。

おくすりによる副作用や体調の変化を調べるためにも、定期的な検査はとても大切です。



わからないこと、不安に思うことなどがあったら、医師・薬剤師・看護師に相談してください

カボメティクスの服用に関するQ&A



Q カボメティクスはいつまで服用すればいいのですか?

A 医師の指示に従いましょう。体調がいい日が続いていても、あるいは気分がわるいときが続いていても、自己判断でカボメティクスの服用をやめてはいけません。
自己判断でカボメティクスの量を減らしたり、増やしたりすることもしないでください。

Q ほかのおくすりを服用してもいいですか?

A カボメティクスをほかのおくすりと一緒に服用すると、カボメティクスのはたらきが弱くなったり、思わぬ副作用があらわれることがあります。
現在服用しているおくすり（ほかの病院や診療科で処方されたもの、薬局で買ったもの）がある場合は、医師・薬剤師・看護師に伝えましょう。また、これから服用しようと思っている場合は、事前にご相談ください。

Q 服用に際して、食事制限は必要ですか?

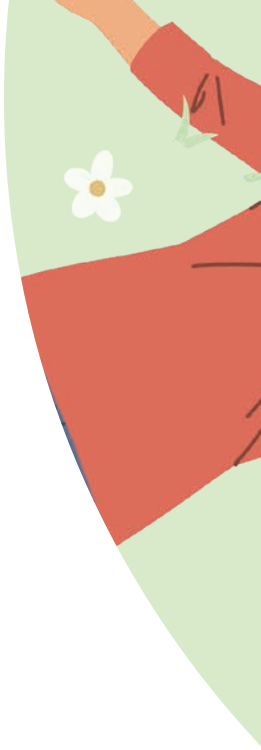
A 腎機能に問題がなければ、カボメティクスの服用中、特別な食事制限は必要ありません。動物性タンパク質の過剰摂取と塩分を控え、栄養バランスのとれた食事を心がけましょう。適切な塩分量については、医師・薬剤師・看護師にお尋ねください。
ただし、カボメティクスの効果や副作用の発現に影響が出ることがありますので、グレープフルーツジュースやセイヨウオトギリソウを含む食品の摂取は控えてください。

Q ほかの病院や診療科にかかろうと思っていますが、いいですか?

A 腎細胞がんの治療のためカボメティクスを服用していることをその病院・診療科の医師にお伝えください。

memo





医療機関名

カボメティクスを服用されている患者さんとご家族のための情報サイト

カボメティクス.jp

https://www.takeda.co.jp/patients/cabometyx/rcc_combo/

武田薬品工業株式会社

（4-1-0042）

2026年6月作成